

水戸藩郷土と維新関係者 その人間の繋がり

注：★印 同族

- ★西丸帯刀（常陸国大津村郷土）：号・松陰 新羅三郎義光末裔 佐竹義廣（初代西丸家）
伊藤博文一桂小五郎；坂下門の変と「成破の盟」の関係者
関三重（関鉄之介の血統）；西丸家嫁・玄孫西丸徹の実母
島崎藤村（西丸の孫・哲三の妻いさは藤村姪）・哲三次男は島崎藤村分家養子に。
注）藤村は小説『夜明け前』作者
- ★野口雨情（常陸国磯原村郷土）：楠正季第25代後裔 水戸光圀の血統を受け継ぐ
雨情の伯父・野口勝一（北巖）：明治14年茨城県第二代県会議長・衆議員3期（明治25年-35年）・日本最初の『吉田松陰伝』を刊行（富岡正信と共編）。
雨情「桜田烈士を讃ふ」の詩作詞（未発表作品。後に発見。）
- ★長久保赤水（常陸国赤浜村郷土）：安永8年（1779）日本最初の経緯線の入った日本地図『日本輿地路程全図』を作成。幕末期には彼の地図によって維新の志士は活動した。吉田松陰が嘉永6年（1853）実兄宛の手紙にそのことが書かれている。吉田松陰は、赤水の墓に詣でている。60歳で水戸6代藩主徳川治保^{はるみ}侍講。藤田幽谷発掘。
- 桜岡源次衛門（常陸国袋田村郷土）：「桜田門外の変」のリーダー・関鉄之介が隠棲した家。勤皇の志士に資金提供。桜岡新家第3代目・桜岡敏は、明治28年6月第13代茨城県県会議長に就任。江戸時代コンニャクの機械による製造を考案し財をなし窮民を救う。

参考文献：『西丸帯刀と幕末水戸藩の伏流』・長久保片雲・新人物往来社
『桜田門外ノ変』・吉村 昭・新潮社
『桜田門外ノ変』映画・監督佐藤純彌・主演大沢たかお・原作吉村昭

令和2年1月27日

横浜歴史研究会 堀江洋之

野口雨情略年譜

明治15年5月29日、茨城県多賀郡北中郷村磯原（現北茨城市）に父量平、長男として生まれる。本名は英吉

明治22年磯原尋常小学校に入学（8歳）

明治25年2月15日、伯父の野口勝一が、代議士となる（11歳）

明治26年、豊田高等小学校に入学

明治30年（16歳）上京、伯父4野口勝一宅より東京神田の中学校に通学

明治30年（16歳） この頃雑誌「文庫」に俳句を投稿し作詩活動を始める

明治32年（18歳） この頃より民謡体の詩を創作する。

明治34年4月（20歳）東京専門学校（後の早稲田大学）英文科に入学、明治37年8月中退。

明治37年1月（23歳）父量平死去。8月に生家を守るため茨城県磯原に帰郷。11月結婚する。

明治40年（26歳）3月以降、人見東明・三木露風・相馬御風・加藤介春・早稲田詩社を結び、早稲田文学への発表が多くなる。7月中央公論に「地唐白唄」を発表、坪内逍遙の紹介で北海道新聞社長東山華氏と会い北海道に渡る。北鳴新聞社に入社。9月石川啄木を知る。以来親交を結ぶ。10月啄木と共に小樽日報の創業に参加。11月より出社18日札幌より小樽に移転、10月主筆排斥がおこり31同社を去る。

明治44年（30歳）4月上京、有楽社に入社、6月郷里より妻子を呼びつづいて母てるを引きとる。

8月皇太子殿下（大正天皇）北海道巡啓に当たり報道記者団の一員とし渡道。9月母てる死去。危篤の報せに急遽帰京。臨終に間に合わず。

10月、茨城県磯原の郷里に引き揚げ郷里の家を守り、植林事業に携わる。

大正4年（34歳）5月妻と協議離婚。

大正9年（39歳）9月「十五夜お月さん」を金の船に発表。11月有楽座で本居長世氏発表会行われ、雨情作の「十五夜お月さん」が大喝采をうける。以来歌う童謡が盛んになる。

大正11年40歳3月野口雨情、北原白秋、西条八十を中心とする童謡誌「とんぼ」が創刊「枯れすすき」を改題中山晋平新作「小唄集」に収める。

7月「七つの子」を金の船に発表。弘田龍太郎がお茶水女学校にて童謡講習会を開催、主に野口雨情、北原白秋の童謡を講習す。

12月「青い眼の人形」を金の船に発表。

大正11年(41歳)6月金の船が金の星と改題。7月「黄金虫」を金の塔に発表、
11月「しゃぼんだま」を金の塔に発表

大正12年43歳、5月満州各地を講演(満鉄の招聘)6月17日大阪朝日新聞
後援児童音楽研究会主催大阪中之島公会堂の講演会

大正13年5月 兎のダンスをコードモノクニに発表。教育学術研究会編「小学教
育と童謡を同文館に評論を載せる。6月童謡集「青い眼の人形」を金の星社
より出版。

『波浮の港』を婦人世界に発表。12月 再び満鉄の委嘱により満州・蒙古方面
を旅行・証城寺の狸囃子」を金の星に発表。

大正14年(44歳)婦人画報や婦女界に蛍の夢等を発表。5月小林愛雄等と日
本作家協会を設立。

昭和19年(63歳)1月宇都宮市外鶴田(現宇都宮市)の羽黒山山麓に疎開し療
養生活を送る。

昭和20年(64歳)1月27日永眠

引用・参考文献1)現代日本文学大事典・明治書院。久松潜一等5人で編集

(2)『みんなで書いた雨情伝』金の星社・発行世話人

齊藤佐次郎(雨情会会長)・古茂田信男・高田三九三